

# 教 育 評 価 報 告 書

( 平成 1 3 年度着手分 )

新潟大学歯学部附属病院

平成 1 4 年 4 月

新潟大学評価委員会



## 対象組織の現況

組織名：歯学部附属病院

病院構成：診療科

### 口腔外科

顎顔面外科診療室

口腔再建外科診療室

画像診断・診療室

歯科麻酔科診療室

### 口腔保健科

予防歯科診療室

加齢歯科診療室

### 歯の診療科

義歯（冠・ブリッジ）診療室

歯の診療室

小児歯科診療室

### 噛み合わせ診療科

歯周病診療室

義歯（入れ歯）診療室

矯正歯科診療室

中央診療施設等

総合診療部

特殊歯科総合治療部

検査部

手術部

放射線部

薬剤部

看護部

事務部

学生総数：歯学部歯学科

1年次 55名

2年次 65名

3年次 58名

4年次 62名

( 歯学部附属病院 )

5 年次 5 8 名

6 年次 6 5 名

大学院歯学研究科

1 年次 3 7 名

2 年次 3 5 名

3 年次 3 5 名

4 年次 4 2 名

研修医 2 1 名

教員総数： 1 1 2 名 (うち病院所属 5 1 名，左記以外に臨床教授 1 7 名)

## 教育目的及び目標

### ( 1 ) 教育理念

本院の基本理念は「クライアント・ベース ( 患者さんのための ) 」, 「エビデンス・ベース ( 学理に基づいた ) 」, 「オーラルヘルスケア ( 口腔と全身の健康を考えて ) 」であり, これに基づいて, 複数の専門領域にわたる学識を統合する能力, 常に自己研鑽し続ける能力を持ち, 優れた医療倫理観を有する全人的な歯科医師を育成し社会に輩出することを教育目標として掲げている。

### ( 2 ) 教育目標

本院の目標は, 人間尊重の全人的医療の確立, 歯科臨床教育の充実, プライマリー・ケアの充実, 予防歯科医学の実践, 専門医療, 高度先進医療の発展, 地域医療への貢献と国際協力の推進, であることより, この目標に沿った高い倫理観と豊かな人間性並びに優れた診療能力を有する良き臨床医を育成することを教育目標としている。

また, 卒後臨床研修では, 患者の抱える種々の問題を全人的にとらえ, 一般歯科医療についての基本的な診療能力 ( 態度, コミュニケーション, 知識, 判断力, 技術 ) を身につけることを一般目標として, 特に, 歯科医療における社会的側面の重要性を認識し, 適切に対応できる, 患者とうまくコミュニケーションをとる能力を身につける, 口腔ならびに全身の健康管理に関わる基本的知識を身につける, 全身状態を考慮した治療計画を立案する能力を身につける, 歯科疾患についての基本的知識の上に, 科学的根拠に基づく治療の標準的技術を身につける, 患者の年齢や性別にかかわらず, 緊急を要する疾病, 頻度の高い症状・病態に対する診査診断能力を身につけ, さらにそれを確実に実施できる, 歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できる能力を身につける, 自ら行った処置の予後について予測する能力を身につける, 先端医療や特殊診療に関する知識及び技術についての基本的知識を身につける, 将来, 専門 ( 認定 ) 医の資格を取得するための基本的知識を身につける, コ・デンタルスタッフとのコミュニケーション能力を習得する, などに主眼をおいている。

## 項目別評価結果

### 2. 教育内容面での取組

ここでは、対象組織における「教育課程及び授業の構成」が教育目的及び目標に照らして、十分実現できる内容であるかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

#### 特色ある取組・優れた点

歯学部附属病院の理念、目的、目標に照らして、学部教育、卒後臨床研修、大学院教育、認定医・専門医教育を幅広く担当している。学部教育では学部第1年次生の「歯学概1」「食べる1,11」、及び「顔」を担当し、第2年次生には「早期臨床体験実習」を実施し、早い時期に臨床歯科医学を体験させ、学生のモチベーションを高める努力をしている。第5年次生では臨床予備実習で各診療科・施設をローテートし、相互実習など実際の歯科臨床により密着した実習を行い、6年次の本実習を可能とするための臨床手技・知識を学習させ、適性を評価している。第6年次生では歯学部附属病院だけではなく、学外でも臨床実習を行い、歯科医療の実践教育がなされ、その終了時のレポートから問題点の抽出とその改善を行っている。これらは特色ある、優れた取組として大いに評価される。

卒後臨床研修では全国共通カリキュラムに定める研修項目の他に、新潟大学歯学部附属病院が独自に定める項目について臨床研修を行っており、平成12年には新しい臨床研修プログラムを作成し、従来の欠点の改善を計っている。2年間にわたる前期と後期研修は研修システムが確立しており、その中で臨床研修医セミナー、総合講義、臨床示説、症例検討会などへの参加、大学院・医歯学総合研究科と提携しながらの研究指導、各学会の定める認定医・専門医修練要項に準拠した総合的な研修、教育を実施できるようにしている点も大いに評価される。

#### 改善を要する点・問題点等

歯学部附属病院は学部教育、卒後臨床研修、大学院教育、認定医・専門医教育を幅広く担当しているが、学部教育や大学院教育などは部分的に担当するなどしているため、組織的に教育内容、研修内容を改善しにくい点もあり、その取組は不十分となっている。今後

の改善の努力が求められる。

#### **貢献の状況 (水準 : 7)**

取組は教育目的の達成に大いに努力していると認められるが、改善の余地もある。

### **3 . 教育方法及び成績評価面での取組**

ここでは、対象組織における「教育方法及び成績評価法」が教育目的及び目標に照らし、適切であり、教育課程及び個々の授業の特性に合致したものであるかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

#### **特色ある取組・優れた点**

第5年次生の臨床予備実習は小グループで行い、歯科医師として必要な手技や知識の修得を目指した厳格な評価が行われ、第6年次生の病院内外の臨床実習では総合診療と分散実習が行われ、そのレポートなどで厳格な評価を行おうとしている点は大いに努力していると認められる。

卒後研修は卒後研修運営委員会などで研修の仕方の改善が計られ、研修の評価は研修医の自己評価で行われ、終了判定は国立大学医学部附属病院長会議卒後臨床研修問題小委員会の共通カリキュラムに則して科せられた治療ケースが最小研修単位に達することで行われ、成績判定の標準化に努力しているといえる。また、症例報告会での研修医による報告やその報告集を検討し、修了判定の大きな材料にするなどきめ細かい成績評価を目指している。これらは、成績評価を厳格に行おうとする意図の表れと大いに評価できる。

#### **改善を要する点・問題点等**

第5年次生の臨床予備実習や第6年次生の病院内外の臨床実習で厳格な評価が行われていると述べられているが、どのようになされているかは明瞭ではない。臨床実習や研修では厳格な評価の仕方などは難しいと考えられるが検討する余地はあると思われる。また、その改善へ取組む仕組みも作ると良いと考える。

( 歯学部附属病院 )

#### **貢献の状況 (水準 : 7)**

取組は教育目的及び目標の達成のためはかなり努力している状況であるが、まだ改善の余地はあるので今後の成果に期待したい。

#### **4 . 教育の達成状況**

ここでは、対象組織における「学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況や「卒業後の進路の状況」などから判断して、教育目的及び目標において意図する教育の成果がどの程度達成されたかについて評価し、特記すべき点を「優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標の達成の程度を「達成の状況(水準)」として示している。

##### **特色ある取組・優れた点**

学部教育では平成 12 年度の 5 年次臨床予備実習においては 60 名中 58 名が達成条件を満たし、5 年次の 1 月よりの臨床本実習では実習内容ごとに点数化された最小実習単位の合計実習点 4 0 0 点以上を得た者について臨床系 1 0 講座の臨床実習の達成度や口頭試問等で評価判定、平成 12 年度においては、全員達成条件を満たしたことは評価できる。この点、平成 9 年度から 11 年度まではどうだったのかも記載して欲しい。

卒後臨床研修では国立大学共通カリキュラムと独自のカリキュラムに基づいて総合診療部で定めた研修の各項目の目標はほぼ達成され、平成 12 年度においては全員研修医修了と判定されているので、卒後臨床研修の達成状況は良いと判定する。また、卒後臨床研修の目標達成状況や研修内容の改善への取組は外部評価でも高く評価されている。

また、歯学部附属病院で修練を受けた歯科医師の認定医・専門医試験の合格率は 100% であることも教育成果はかなり上がっていることを示している。

##### **改善を要する点・問題点等**

外部評価で前期卒後臨床研修の基礎実習でコミュニケーションスキルのトレーニングも研修に取り入れることが望ましいと指摘されている点は改善の必要がある。学部教育、卒後臨床研修、大学院教育、認定医・専門医教育の達成状況を平成 12 年度だけでなく、平成 9 年度から 11 年度までも調べて記載して欲しい。

歯学部附属病院での教育の達成度や評価法の標準化については、まだ、きちんと整備されていない印象をうけるので、この点は大いに検討していただきたい。

#### **貢献の状況 (水準：8)**

取組は教育目的及び目標の達成にむけて努力しようとしていることが示されているが、大いに改善の余地もあり、今後の検討に大いに期待したい。

### **5. 学生に対する支援**

ここでは、対象組織における「学習や生活に関する環境」や「相談体制」の整備状況や「学生に対する支援」が適切に行われているかを評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点等」として示し、教育目的及び目標への貢献の程度を「貢献の状況(水準)」として示している。

#### **特色ある取組・優れた点**

歯学部図書室を平日は夜8時まで学生向けに開放し、設置されている学生用コンピュータ30台を用いたり、そこを自習場所として利用させている。

また、臨床基礎実習時間内で実習の終わらない学生には、適宜、教員用技工室などを教員の監督下で使用させ、実習の支援をしている。

これらの点は大いに努力していると評価できる。

#### **改善を要する点・問題点等**

学生支援に関する改善点や問題点は歯学部附属病院の教育評価自己評価書に触れられていないが、それは改善点や問題点がないというのではなく、その視点での取組がなされていないと評価される。この点は大いに改善を望みたい。

#### **貢献の状況 (水準：6)**

取組は教育目的及び目標の達成に努力していることを示しているが、今後さらに成果が上がるように努めて努力して欲しい。

( 歯学部附属病院 )

## 6 . 教育の質の向上及び改善のためのシステム

ここでは、対象組織における教育活動等について、それらの状況や問題点を組織自身が把握するための「教育の質の向上及び改善のためのシステム」が整備され機能しているかについて評価し、特記すべき点を「特色ある取組、優れた点」、「改善を要する点、問題点」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況(水準)」として示している。

### 特色ある取組・優れた点

平成 12 年に歯学部附属病院評価委員会が設立され、臨床教育講義回数・臨床基礎実習回数・臨床予備実習回数・臨床本実習回数・指導した臨床医数・卒後研究講義、セミナー回数を教員の臨床教育評価としたのは評価できる。その評価の実施と改善への取組が今後必要である。

平成 11 年には歯学部附属病院の教員を含めた歯学部、歯学部研究科全教員に対する教育実績、学生評価が調査され、その結果は平成 12 年 1 月のミニワークショップ「歯学部教育の問題点とその解決法」で討議され、教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てたことは非常に評価される。その討議内容やどのように教員にフィードバックしたのかも記載して欲しい。

教育方法等の F D も平成 11 年からは歯学部主催で年、4 ~ 5 回行っており、それらのほとんどは全教員を対象とした教育に関するもので、それらの F D も、従来の講義スタイルから、ワークショップ形式への転換を試みているなど意欲的な点は大いに評価される。

### 改善を要する点・問題点等

自己点検評価委員会は設置されているが、現在のところ歯学部附属病院独自の教育活動評価するような機能ははたしていないようなので、その実施にむけた努力が望まれる。

また、年数回開催されている F D も歯学部附属病院に特化したものはないようであるので今後検討して欲しい。

### 貢献の状況 (水準 : 7)

向上及び改善に努力していることは評価されるが、なお、改善すべきところもあり、一層の努力が望まれる。

## 7 . その他

特色ある取組・優れた点としては歯学部附属病院は歯学部と共に平成 11 年度に外部評価委員の書面審査ならびに実地調査による歯学部教育に関する外部評価 ,平成 12 年度には文部省の補助により , 著名外国人研究者による外部評価を受けている。これらの評価で指摘された事項については適宜改善をすすめている点は高く評価される。

貢献の状況 ( 水準 : 7 )

## 総合的評価結果

アドミッション・ポリシーは、附属病院については評価項目からはずしてあるが、歯学部附属病院のアドミッション・ポリシーは歯学部と同じであるのは少しおかしいのではないか。歯学部附属病院には特に研修医などについては独自のアドミッション・ポリシーがあってもいいのではないか。

自己評価書の体裁としては項目しかなく、その評価水準しかない。観点に分けた評価が求められていたのだから、観点を取り上げ、観点ごとに評価する努力が必要と考える。

教育内容面では学部第1年次生の「歯学概1」「食べる1,II」、及び「顔」を担当し、第2年次生には「早期臨床体験実習」、第5年次生では臨床予備実習、第6年次生では臨床実習を行うなど学部教育に広く関与しており、学部教育にも貢献していると認められる。

卒後臨床研修では国立大学歯学部附属病院卒後臨床研修の全国共通カリキュラムに定める研修項目の他に、新潟大学歯学部附属病院が独自に定める項目について臨床研修を行い、平成12年には臨床研修プログラム、臨床研修医セミナーを実施し、総合的な研修ができるように大いに努力していると認められる。

学部教育の評価はレポート、症例検討会などで行われ、卒後臨床研修では研修記録の自己点検・自己評価と教員評価で行われ、最終評価は教員を一堂に会したケースプレゼンテーションでなされるのでかなり厳密に行われていると言える。しかし、これらの方法では評価基準が曖昧になりやすいので今後の検討が必要と考える。

学部学生の臨床予備実習や臨床実習ではほぼ全員が満足できる成績を修め、研修医では認定医・専門医試験の合格率が100%であることから教育の達成状況は非常に良いと評価される。学生の支援は必ずしも充分ではないが、教員用技工室の利用を許可したりしてかなり努力している面もある。

また、教育の質の向上と改善のための方策も、教育業績評価の実施、教育活動の評価、学生による評価、FDの実施、外部評価など広く行っており、大いに努力していると考えられる。

## 評価結果の概要

### 1 . 項目別評価の概要

#### 2 ) 教育内容面での取組

学部教育，卒後臨床研修，大学院教育，認定医・専門医教育を幅広く担当し，新しい臨床研修プログラムを作成するなどして，従来の欠点の改善を計っている。しかし，組織的に教育内容，研修内容を改善しにくい点もあり，その取組は不十分となっているところもある。

#### 3 ) 教育方法及び成績評価面での取組

学部学生の実習ではレポートなどで厳格な評価を心掛けているし，卒後研修では自己評価を行い，その成績判定の標準化にも努力している。しかし，臨床実習や研修では厳格な評価の仕方などは難しいと考えられるが検討する余地はあると思われる。

#### 4 ) 教育の達成状況

学部教育，卒後臨床研修でも教育の達成状況は良いと判定できるし，認定医・専門医試験の合格率は 100%であることも教育成果はかなり上がっていることを示している。しかし，教育の達成度や評価法の標準化については，まだ，きちんと整備されていないので，大いに検討していただきたい。

#### 5 ) 学生に対する支援

歯学部図書室を自習場所として利用できるようにし，教員用技工室などを臨床基礎実習が時間内で終わらない場合に使用させるなどの支援をしている。

#### 6 ) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

教育方法等の F D を年数回行っている点や，全教員に対する教育実績，学生評価を調査し，その問題点などを討議し教員にフィードバックしようとしたことも非常に評価される。今後は歯学部附属病院に特化した教育の質の向上及び改善を検討して欲しい。

### 2 . 総合的評価の概要

歯学部附属病院には独自のアドミッション・ポリシーがあると考ええる。自己評価書の体裁としては項目しかなく，その評価水準しかないので，観点に分けて自己評価する必要がある。教育内容面では学部教育，卒後臨床研修，認定医・専門医教育などはおおむね良く行われていると思われませんが，病院独自の取組としてはまだ改善の余地があると言える。学部学生の臨床予備実習や臨床実習ではほぼ全員が満足できる成績を修め，研修医では認

( 歯学部附属病院 )

定医・専門医試験の合格率が 100%であることから教育の達成状況は非常に良いと評価される。学生の支援は必ずしも充分ではないが、かなり努力している面もある。また、教育の質の向上と改善のため教育業績評価の実施、教育活動の評価、学生による評価、FDの実施、外部評価などで広く行っており、大いに努力していると評価できる。